内海ITU事務総局長

ジュネーブ便り

（2003年7月）

◎内海総局長から

今年の秋のITUは、追加理事会、テレコム、サミット等の大きな行事が待ち受けています。しかし、その準備がなかなか思うようにはかどりません。さすがに主要な職員たちは、7月いっぱいは、ブツブツ言いながらも働いていたようです。しかし、8月になると、仕事が終わっているわけではないのですが、当然のごとく皆、長期休暇をとり始めました。お盆の時期も予算案準備で徹夜して働く日本の中央官庁職員の責任感とは程遠いところです。日本人ほど滅私奉公の精神が強い国民は世界中どこにもいないと思いますが、この責任感は、こちらではなかなか理解してもらえないところです。さて、どちらが望ましいのでしょうか。

◎7月の事務総局長の主な動向

7月2日　ITUテレコム展示者会議（ジュネーブ）

4年ごとに開催してきたテレコムの展示会とフォーラムで構成されるITUテレコムワールド2003を、10月12日から18日にかけてジュネーブの展示会場（Palexpo）で開催します。テレコムを取り巻く世界的経済状況は厳しいものの、750の企業および団体が出展し、11万5,000人の入場者を想定しています。また、フォーラムにも、民間セクターCEOや、各国大臣等が多く出席します。前回のテレコム99に比べると、最近のテレコム業界の状況を反映して、展示スペースなどが減少していますが、このような厳しい状況だからこそ、こういった展示やフォーラムに出席しようという意識もあるように感じられます（http://www.itu.int/WORLD2003/forum/programme_preview.html）。

また、12月10日から12日かけて開催するWSISに向けたプレサミットとしても位置付けています。

7月3日　デサイ国連事務次長、スイス政府らとの会談（ジュネーブ）

昨年夏に南アフリカで開催した国連の持続可能な開発サミット（WSSD）で事務局長を務めたニティン・デサイ国連事務次長が、この7月、WSIS担当国連事務総長顧問に任命されました。WSISの開催を巡っては、国連NY本部、ユネスコ、UNDPなどなど多くの機関の関心も高く、それらのバランスにも十分な配慮が必要なところ、今後、デサイ氏の経験がうまく生かされることを期待しています。このデサイ顧問と、WSIS時にサイドイベントとして開催されるICT4D（http://www.ict-4d.org）の準備を進めるスイス協力開発庁のフスト長官、およびOFCOMフーラー長官と、WSISの準備状況について協議しました。現時点で30カ国以上の元首の出席が確定していることから、セキュリティ、プロトコルおよび会議の議事進行などロジスティックな部分について、今後、各機関と協力していくことが確認されました。

7月7日　ITU調整委員会会合（ジュネーブ、ITU）

ITUの選挙職で構成される調整委員会をITU憲章・条約に基づいて定期的に開催しています。今回は、2003年の予算執行状況および2004－05年ITU予算案を協議しました。2003年の予算執行状況については、当初想定していた収入が得られない状況のなかで、どのように対応していくかが課題であり、不急のプロジェクトの一時中止や通信費用などの節約など、できる限りの対応を今後とも続けていくこととしました。

ITUは、各局長がそれぞれ選挙で選ばれ、それぞれが自分たちの局の運営に関心が高いこと、また各局長が将来の選挙を考えながら行動しているなど連邦制の弊害もあり、調整委員会で各局長の意見をまとめるのは簡単にはいきません。

2004－05年予算案については、5月のITU理事会での各理事国の対応を考慮して、理事会専門家会合（GoS）および理事会オーバーサイト会合（COG）の助言を取り入れて分かりやすい予算案となるように準備を進め、7月末までに予算案を完成させることを目標にすることにしました。

7月15～18日　WSISドラフティング会合（パリ、ユネスコ）

パリのユネスコ本部において、今年12月のWSISで採択される宣言および行動計画の文面について協議するWSISドラフティング会合を開催しました。当初、ジュネーブで開催することが検討されていましたが、松浦ユネスコ事務局長のご好意でユネスコより会議室およびスタッフを提供していただけることになりました。

各国政府だけではなく、民間企業およびNGOらも参加して、宣言および行動計画の内容について深い議論ができました。各出席者に、より良い宣言および行動計画を策定しようとする雰囲気が満ちていて、難しいと思えたドラフティングの作業も前に進み、ブロードバンド、セキュリティ、インターネットガバナンスなどなどの主要項目を整理しつつ、9月のWSIS準備会合で議論するための宣言（案）および行動計画（案）をまとめることができました。

7月16日　ITU理事会オーバーサイトグループ会合COG（パリ）

10月のITU追加理事会に提出する2004－05年予算案を提示するとともに、過去10年のITUの財政状況を説明した文書を同会合に提示しました。過去10年の経緯を調べると、ITUの予算が増額する時期もありましたが1996年以降は減額の流れになっています。実際の物価指数の上昇を考慮すると、この5年間で実質10パーセント以上の減額をしていることになります。その一方、ITUの活動に対する要請は大きくなり、世界電気通信フォーラム（WTPF）の開催、WRCの準備会合（CPM）の開催、理事会および会議での使用言語の6カ国語への増加、ENUM関連活動など活動の幅が増えてきています。

このようなITUの財政事情を説明したのですが、各理事国の理解にはばらつきがあることを感じました。追加理事会に向けて、さらなる情報提供、説明をしていくことにします。

7月21日　ITU理事会専門家グループ会合GoS（ジュネーブ、ITU）

先の16日に開催されたCOGの模様が紹介されるとともに、同GoSの目的である中長期的に取り組むべきITUの課題について、今後どのようにして検討を進めていくかが議論となりました。各専門家だけでは、ITUの財務、人事のことなど詳細にわたって把握し勧告することが難しいことから、今後外部のコンサルタントを雇用して、2004年の理事会までに勧告案をまとめていくこととなりました。

7月30日　WSIS戦略委員会（ジュネーブ、ITU）

WSIS準備のための重要課題を整理し、WSIS準備プロセスを強力に推し進めるためにこの委員会を定期的に開催しています。今回は特に、12月10日から12日のWSIS本番時の会議の構成などを整理しました。各国代表のレベル（元首、王室、大臣、大使などなど）と地域的バランス、民間やNGOの参加を考慮しつつ、また過去のサミットの例示を見ながら会議の構成および内容を慎重に整理していきました。

言葉、文化、経済などの異なる世界中の国、地域から要人が集まるということで、配慮すべき事項も多く、また資金もかかることであり、関係者を調整するのも大変な作業です。